

谷村地区 其の一

谷村地区

神社名 金山神社

鎮座地 都留市上谷金山一、三三五番地

神事用具

神樂、神輿保存。

金山神社の神輿は近在には見られない程の立派なものである。この神輿は、名工福田俊秀とその父石田半兵衛親子の合作によるもので、慶応二年の作で、当時の金額で金五十両といわれている。

台が $121\text{cm} \times 121\text{cm}$ 、高さ 200cm 、屋根 $145\text{cm} \times 145\text{cm}$ の大型のもので、四隅に狛犬、正面に鶴、中欄に虎、扉の両側に孔雀、下欄に亀、左側面上欄の上り竜、下欄の下り竜、裏面の亀などの彫刻は何れも総金箔で荘厳されていて大変立派なものである。

なお、神楽堂は大正十二年、元谷村町長加藤町郎の作で、その四圍の彫刻は俊秀の息子福田俊吉（陽斎）の作である。

天目一筒命、

由緒

創立年代は不明であるが相當に古いようである。鍛冶工に御利益があるとしてその信仰が厚かった。

例祭

九月一日

もとは八月七日



古書に「往古建久年間右大將源頼朝公於富士之獵場有獻千鍛百鍊者公利用而大有感覺即為稀代名聞之驗敷地得若干下給因基其由緒創立社殿以伝事蹟永遠不朽然」とある。古い社殿は、現社殿より上の山腹にあったものを、元禄の末頃現在地に社殿を造営し遷宮したものと伝えられている。明治四十年二月十六日神饌幣帛供進社に指定された。

〔金山社〕 村社々地東西三拾武間南北九間三尺面積三百四坪南北字金山ニアリ祭神彦火々出見尊祭日八月七日、とある。

また甲斐国志には
一（金山權現）上谷村 例祭七月七日上町ノ産神ナリ井倉村神主兼

帶、となつてゐる。

社殿

境内三〇四坪

本殿 流造り一間社銅板葺 雨屋なし。

本殿の御紋章は三ッ巴である。

拝殿 切妻向拝造り亜鉛葺、金山神社の朱塗りの立額がある。

六間II三間。

神灯 一対

鈴 一

神庫 一棟 三間II二間。

石段登り口両脇に神灯一対。左側に二十三夜塔一基。

石段四十二段のところに、両部鳥居木造一基がある。

境内社

稻荷神社

小祠（祭神不詳）



神社名 田原神社

鎮座地 都留市上谷一ノ側五九四番地

祭神 木花開耶姫命、

彦火火手見尊、

応神天皇、

例祭

九月一日

もとは八月二十八

日であった。

由緒

創立の年月は明らかでないが、富士宝永山噴火の際に鎮火祭を行ない

二神を合祀したとの言われている。
甲斐国社記には
田原下浅間宮
若宮八幡宮
都留市
上谷村田原

詩碑 田原飛瀑

瀑流知簾懸 水桶引澣田

電孔降巖石 竜跳走谷川

沫飛虎起雨 清霽山村利

全存此一泉

文政八年十一月

宮礎 式間九尺

金山神社献額

疎昔建久年間	右大將源頼公
於富士之狩場	有此千鍛百鍊
矢根鋒者公利用而大蒙感賞	即為希代名聞之驗 敷地若干
得下給 因基其由緒 創 本社	以傳事蹟永遠不朽焉 然由緒曰
稀代名聞之矢根鋒被鍛付	今度於富士狩場鄰其方
当座之袋美屋敷式町三反	君因仰時正給之
餘 井社領地目八町四方	稀代名聞之矢根鋒被鍛付
建久五甲寅二月五日 美濃守殿	當座之袋美屋敷式町三反

（羽田富士男氏提供資料による）

祭神 木花開耶姫命、彦火火出見命、

社地 七月廿八日」とある。

甲斐国志によると

一（田原社）社地見捨地式拾五坪字原ノ産神トナル一字原ハ上谷

村ノ支村ナリ神主神藤若狭。とあり。別項には

一「佐伯」田原下浅間近辺ノ地名也因テ橋ヲ佐伯橋ト云フ云

とある。

社殿

国道一三九号線に沿い、田原の滝佐伯橋のほとりにある。

本殿は流造り方三尺。本殿両屋は切妻トタン葺で三間II二間。

拝殿は權現造りトタン葺で四間II二間。

田原神社の横額が奉納されている。

鳥居は石造で、田原神社 竹外書の立額が掲げられている。

神灯一対 願主藤江氏 宝曆八戌寅年（一七五八）と刻まれている。

狛犬一対 昭和四十二年九月一日 氏子中。とある。

萩原秋巖

作詩

壩坤

俯瞰飛泉泻洞中

風飄噴沫晝濛々

孤疑脚下虹霓落

化作青龍走海東

(昭和六年、東桂村郷土誌による。)

〔大室社〕 村社々地東西拾五間三尺南北六間壹尺式寸面積九拾六坪南方前同所ニアリ祭神伊弉諾尊伊弉冊尊祭日陰曆七月廿二日。

とある。

甲斐国志には

一「大室神社」

右詩資料は羽田富士男氏の提供に依る。佐伯橋の上にある田原の滝は有名なもので、古い本によると元禄五年（一六九二年）田原瀑布の真上にあつた橋が落ちたことが記録されている。

旧佐伯橋の橋畔に、昭和二十六年秋建立された勢あり つらら消えては 滝津魚の俳聖松尾芭蕉の句碑が建てられている。

神社名 大室神社（山神社）
鎮座地 都留市上谷金山一、三〇〇番地

祭神 伊邪那岐命
伊邪那美命

例祭

八月七日

由緒

昔は鍛冶屋坂天神の末社五社のうちにあつたといわれるが、何時の頃か独立したものと伝えられている。

山梨県市郡村誌に



上略 末社五祠
内大室權現ハ裏
天神町ノ産神ナリ 下
略となつてゐる。

社殿

県道道志線沿いで、都留遊歩道出入口を登り、桜の植えられてある整備された石段の参道を上り、鍛冶屋坂の頂、東電のピアの下にあって非常に眺めのよい場所にある。

祭神 大物主命
崇徳天皇

例祭

四月十日

十月十日

由緒

永正十六年（一五十九年）武田

信虎のつづじか崎築城にあたり、城内南端に金毘羅神を祀り深く

信仰した。次いで天文十年（一五四一年）武田

信玄（当時二十才）は、この神の神徳を甲斐

国全域に広げその分靈を一円に



境内

本殿は流造りの一間社で、雨屋は切妻トタン葺である。

拝殿は寄せ棟造りトタン葺で、三間II二間である。

正面に、大室神社 源厚謹書の額が奉納されている。

境内

境内は約三〇〇坪あつて、次の石造仏等が祀られている。

庚申塔 嘉永四年（一八五一年）建立。

六地蔵 山形、像長23cm、全長46cm、巾42cm、厚さ21cm。

左側に、奉造立六地蔵尊、右側に、三界万靈。

裏側に、施主谷村新町圓也善左エ門と、刻まれている。
馬頭観音六基、

道標一基 高さ50cm、巾23cm四角柱。正面に、南無阿弥陀仏、

左側に、左ほうのふ
とざわ

右側に、右みしょうたい
どうし

と、記されている。

神社名 金毘羅神社

鎮座地 都留市上谷三一六一三

授けた。その時に奉祀したのが本神社であつて、初め現勝山八幡神社の奥地の處に奉祀されてあつたが、勝山城をつくるため勝山八幡神社と共に移転して次の山金毘羅山に鎮祭した。そして明治の初年に現在地に奉遷されたとのことである。

社殿 本殿 入母屋トタン葺流れ向拝造り、八畳二〇歩、
拝殿 一畳一五歩、
居 木造朱塗両部造り一基。
鈴 一

神社名 天神社

鎮座地 都留市上谷鍛冶屋坂一、七七二番地

祭神 八意思兼命

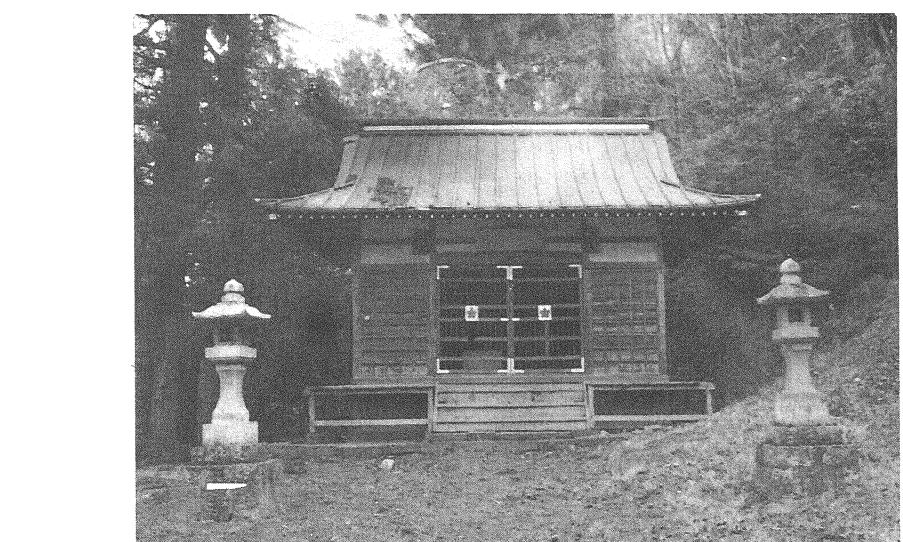
菅原道真公

例祭

七月二十五日

祭神八意思兼命について

思兼神者有思慮之智 亦名入意思兼命 と日本書紀にあり、天照



神社名 大神社

鎮座地 都留市下谷仲町一、七二三番地

祭神 天照皇大神

須佐之男命

建御名方命

例祭

四月十五日

由緒

南鶴神社誌に

「創立は古く本

殿内陣は、第一

一二代靈元天皇

の御代貞享三年

(一六八六年)

丙寅七月の中島

金左衛門の寄進

にして、宝物として藏する鏡は代官秋元但馬守の重臣高山伝右

大神を天之岩戸から出すにあたって、いろいろと考えをされた智慧の神である。

建仁三年（一一〇三年）の創立であるといわれ、菅原道真公は後世になってから合祀されたものであるという。

由緒

甲斐国志によると
一、「天満宮」

同村天神町ノ東南
カジヤ坂ノ北ニアリ
内大室權現ハ裏天神
町ノ産神ナリ

本殿、幣殿、拝

殿、末社五祠、

領壱反六畳拾六

歩、上谷村 神

主神藤若狭、古

文書三通アリ小

野権現ノ下ニ出

ス神宝天満宮御

琳沙門堂一字、

山林境内除地式

反 下谷村 社

主神藤若狭、古

文書三通アリ小

野権現ノ下ニ出

ス神宝天満宮御

琳沙門堂一字、

山林境内除地式

反 下谷村 社

主神藤若狭、古

文書三通アリ小

野権現ノ下ニ出

ス神宝天満宮御

琳沙門堂一字、

山林境内除地式

反 下谷村 社

主神藤若狭、古

文書三通アリ小

野権現ノ下ニ出

ス神宝天満宮御

琳沙門堂一字、

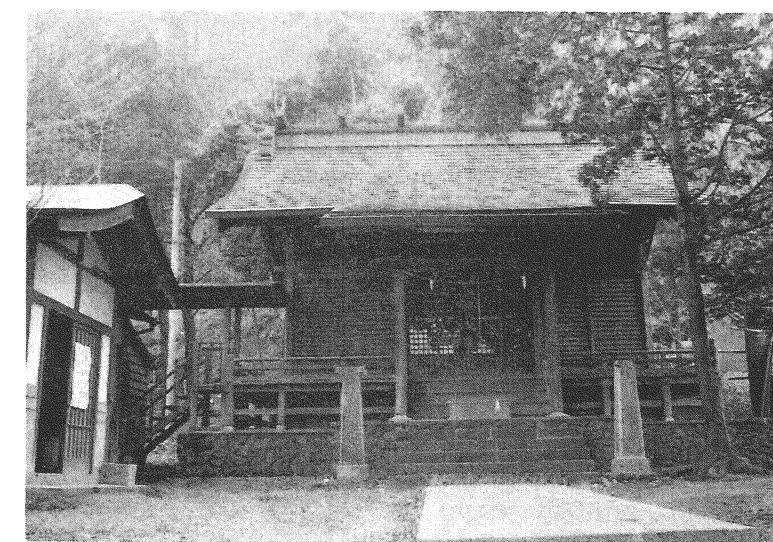
山林境内除地式

反 下谷村 社

主神藤若狭、古

文書三通アリ小

野権現ノ下ニ出



社殿

県道道志線沿いにあって、石門柱より第一石段十六段のところに神灯一对がある。願主森嶋其進門人中、文化十一年と刻まれている。第一段突き当たりに廿三夜塔碑一基がある。第二石段二十二段、第三石段二十段、第四石段十一段、第五石段五段を登り、六七三坪の境内の中に社殿がある。

本殿は一間二〇・五間あつて、社殿の中に造り込みになつてゐる。社殿は入母屋トタン葺で三間二二間。正面に天満宮の額が奉納されている。社前に一对の神灯がある。

境内社 小祠一社あるも、祭神等不明である。

衛門尉平繁文の内儀の奉納、鏡裏に負享四年丁卯五月。とある。

旧社殿は御伊勢山上に在りしが、いつの頃か現社地に遷宮せしものである。社殿前にあった石橋に、「享保十八年閏正月二十八年

日」と銘があるとのことである。

高山氏は代官秋元但馬守上州館林より国替の際随行せし人なりと。

現本殿は明治二十四年、拝殿は昭和十一年の建築せしものなり。」

と記されている。

甲斐国志には

一「太神宮社」中町ノ東南
山足ニアリとある。

社殿

本殿は流れ造りで一間社、

拝殿は神明造りトタン葺で、三間半＝三間。

神明造りは、大社造りと共に神社建築の最も古い形式で、切妻造り妻入建物にして屋根に反りがあり千木は置千木である。

鳥居木造一基、鈴一

境内社に社務所がある。